

Atsushi Mekaru

銘苺 淳の

HAPPY HANDBALL

vol.3

PROFILE

1985年4月3日生まれ、25才。沖縄県浦添市出身。港川中で野球から転向してハンドボールをスタート。那覇西高一筑波大を経てトヨタ車体に進み、時代を変えるセンターとしての期待を集めて躍動中。ひたむきな取り組み、明るく快活な性格で、ワールドクラスのコミュニケーション能力を誇る『ハンドボール界の松岡修造』。連日更新しているブログ「おにあくま」(<http://meka-atsu.jugem.jp/>)も好評だ。

おごらず、にくまず、あせらず、くさらず、まけるな!!

JOCジュニアオリンピックカップの思い出

年末は全日本総合が終わったあと、名古屋で開催されていたJOCジュニアオリンピックカップを見に行きました。そこには第19回大会の文字。次はもう20回なんですね…。なにかずいぶん年をとってしまったような気分になりました。詳しい内容は今月号をご覧くださいたくして私のJOCの思い出を少し… (笑)

初めての全国大会

私が初めて全国大会に出たのは中学2年生の時、第8回JOCでした。中学2年にあがる直前にハンドボールを始めてからわずか8ヵ月。なにがなんだかわからぬままに九州大会を優勝しての出場でした。どこが強いとか、JOCの大会の意義とかまったく知らずに参加したのを思い出します。そして優勝した愛知県に予選リーグで敗戦。試合の内容などはほとんど覚えていないのですが、唯一覚えているのは、クリスマスなのに大阪堺市は雪も降らず、イルミネーションも少なく、沖縄県民からすればイメージとまったく違った本土でのクリスマスということと、「おいでよ～おいでよ～おいでよ堺へ～」とずっと流れていた堺市のテーマソングくらいでしょうか?? (笑)

第9回JOC大会でオリンピック有望選手に選ばれた銘苺選手



チームのめざすところは…

時は流れて…。少しは日本の情勢を知った中学3年の第9回大会。JOCで優勝することをめざして集まった沖縄県選抜チームは、それはもう超中学級の選手ばかりでした。その夏の全中では仲西中が優勝、私が所属した港川中が3位、それに負けぬ実力の神森中を中心に県内から選ばれた、しかも大型の選手たちでした。私自身も「このメンバーなら全国制覇はできる」と考えていました。

しかし、県選抜のスタッフだった東江さんがミーティングでこう言ったんです。「我々は圧倒的な力で優勝する」——この言葉で沖縄選抜チームは始まりました。

この時、「ズキンッ」と「ドキンッ」がいっしょにきたような気がしました。

「普通に」やれば優勝できるメンバーが「圧倒的な力」で優勝するためには、それなりの覚悟が必要です。日ごろのトレーニングでもいっさい妥協はないし、つねに追われているような感じでした。

「これで圧倒的な力で勝てるのか…?」という極限の集中力、時には恐怖感さえあったのです。

余談ですが、私はキャプテンでした。当時中学1年生だった現大同の棚原選手も同じ選抜チームでやっていたのですが、チームのモラルが乱れるような行動が垣間見えたので「ふざけるな!!」と彼にボールを投げつけたことがあります。

他にも「あっちゃんきつすぎでしょ」とメンバーから言われることもありましたが、スタッフがいなくてこそ厳しいトレーニングを選択してやっていました。

それくらい私も怖かったんだと思います。今となっては中学1年生にボールを投げつける中学3年生もどうかと思いますが、当時はいっぱいいっぱいでした。棚原選手、ごめんなさい。しかし、今でも講習会でボールや笛が飛んでいくことがあります… (笑)

そんな棚原選手を含め、当時180cm前後の長身選手が7、8人はいたと思います。6:0DFで守れば、そうそう相手は攻めきれぬものではなかったと思いますが、私たちはプレスDFでボールを奪いにいくこともしましたし、スカイプレーなどのコンビプレーも織り交ぜて万全の準備をして大会に臨みました。

発表の場

大会本番では初戦で多少の苦戦はしたものの、次の試合では30点差をつけての勝利。そして、決勝戦の直前、相手チームは私たちのプレスDF対策を綿密にしていました。それを横目で見てストレッチをしている私たち。すぐそばで対策を取られていても、まったく怖くありませんでした。「そんなところの対策では崩されるわけではない」という自信があったんでしょうね。

私の浅いハンドボール経験からすると、チームや個人の情態が良くない時こそ、相手チームにあわせて調整をします。もちろんトップレベルにもなると相手チームの特徴を頭に入れることも大切ですが、情態が良い時こそ自分たちのプレーを振り返ることがあります。言い換えれば「自分たちがやってきたことをやれば大丈夫!」という自信だと思っています。JOCの決勝直前はまさにそんな気分だったと思います。

決勝は前半で11点差をつけ、危なげなく優勝できました。目標だった「圧倒的な力」で勝てたかはわかりませんが、あのチームはバランスも良く、日々のトレーニングの緊張感、時にはいろんな恐怖感と闘いながらやってきたことを全国大会の決勝で発表できたと思います。

仲間が増えて…

もうすぐ3月になり卒業シーズンです。進級や進学で新しいステージでハンドボールをする不安も楽しみもあると思います。後輩ができて取り組みが変わったり、ライバルだった選手がいっしょのチームでやったり、いろんな変化があると思います。いまはインターネットなどの情報を得る手段も発達しているので、恩師の先生をはじめ、先輩や後輩とのつながりを大事に、そして大会などで知り合った仲間を大切にしてほしいと思います。

未来の日本を担う中学生を見て「前途有望」と元気をもらったのでした。